

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2372600979
法人名	有限会社 アール・ザ・エイチ
事業所名	グループホーム 虹の家
訪問調査日	平成20年12月20日
評価確定日	平成21年1月28日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2372600979
法人名	有限会社 アール・ザ・エイチ
事業所名	グループホーム 虹の家
所在地	豊川市牛久保町天王下6番地の1 (電話) 0533-84-7808

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年12月20日	評価確定日	平成21年1月28日

【情報提供票より】(平成20年11月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年9月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) 200,000 円	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年11月24日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	68歳	最高	98歳
協力医療機関名	医療法人 共立荻野病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地にあり近くには小学校がある。運動会は見学に行ったり、道で会うと小学生が挨拶をしてくれ無邪気な表情に入居者は元気づけられている。庭には畑があり、四季の野菜作りや作柄をながめ楽しんでいる。ホーム内は居間や食堂、台所を中心にまわりに居室があり台所からは入居者の安全を見守ることができる。食事時はテレビをつけず音楽が流れ、皆がゆったりと食事を楽しんでいた。ホールには入居者手作りの色々な折り紙細工が一面に飾られ、クリスマスの雰囲気が出ていた。気功や折り紙、音楽のボランティアの訪問がよくあり入居者はとても楽しんでいる。毎食後の口腔ケアが熱心に行われており、洗面所には2つのコップが置かれ一方にケア済みの歯ブラシを入れることで皆がケアをしたかを確認できるよう工夫されている。食事は入居者の希望、メニューを取り入れ皆で一緒に係わっている。台所が皆の参加する場所になっていることもまとまりのよいホームであると職員は誇りを感じている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型として、理念に地域住民の一人として共に助けあうなどの内容を加えた。運営推進会議の議事録を全家族に送りホームを一層理解してもらえよう努めている。災害対策については、備蓄品や飲料水を定期的に点検するようになった。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 分かりにくい項目もあったができたことにつき記入した。評価しながら今までのサービスを反省することもあり、振り返る機会になった。今後これらを基に職員同士で話し合う機会を持つことを望んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 討議の内容は地域における活動や地域行事の参加、防災訓練の実施報告など活動状況の報告や今後の会議の進め方などである。ホームに対する意見、希望、不満など聞いているが出されていない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会時や運営推進会議で聞いているがなかなか出されない。今回の家族調査自由記述で意見が出されたので真摯に受け止め、職員皆で話し合い取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。ホームの行事には案内を地域に配布している。地域の催しに参加しており、小学校の運動会にも出かけ入居者は楽しんでいる。散歩などの折に地域の人と会話をしたり野菜を頂くこともある。敬老会の催し物を入居者は楽しんで参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念は「誠意のある質の高い介護、穏やかで安らぎのある暮らし、和をもってお互いを尊重する豊かな心」であるが、新たに地域密着型サービスとして「地域住民の一人として共に行事に参加し共に助け合う仲間であり共に幸せに暮らす社会である」を理念の中にも今まで取り組んできた地域との関わりを加えた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と共に虹の家の思い「虹は七色みんなが喜び人も七色みんなに喜ばれいつの時代でもみんなを見守るそんな人でいたい」が玄関に掲示されている。入居者は散歩や買い物、図書館に出かけ地域の人と挨拶や会話をしたり、地域の行事に招待され参加するなどふれあいを楽しんでいる。外へ出るにより自然にもふれ地域の様子を観察する力も旺盛になってきた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ホームの行事には地域に案内を配布している。敬老会や地区の文化祭にも楽しく参加しており、小学校の運動会には見学に出かけ入居者は喜んでいる。体験学習で中学生がボランティアに来て、入居者はふれあうことで活気づいていた。散歩の折には近所から野菜を頂くこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では分かりにくい項目もあり戸惑ったができる項目について記入した。評価しながら今までのサービスを反省し考えることができ、仕事を振り返る機会になった。今後これらを基に職員同士で話し合いをしていけたらと考えている。昨年の評価から、地域密着型としての理念がつけられ、災害対策では備蓄品や非常用飲料水について定期的点検が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは区長、市議員、民生委員、地域包括支援センター、家族の代表で2カ月に1度開かれている。活動状況の報告がされ、それについて意見交換も行なわれている。外部評価の結果報告もされるようになった。会議の今後の進め方についても話されている。家族の代表は2年の任期になっているが、議事録は全家族に送られている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者へホームの実状を伝えており疑問点や分からないことがある場合は聞くようにしている。消防署との防災の避難場所について話し合いの内容を確認に行ったこともある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が面会に来た時には入居者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。毎月発行している“今月のかわら版”に行事予定も記入されており、これと共に入居者の様子や出納のコピーと領収書を一緒に送付している。健康状態など何らかの変化や問題があった時は電話で連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や希望、苦情がないか面会時や運営推進会議の折にも聞いているが出されない。今回の入居者家族調査の自由記述や質問に対する回答で家族からの改善して欲しい点や気になる点を知ることができた。このように意見や苦情、希望が出された時は職員皆で話し合い善処するよう努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職する職員は少ないが、離職する場合入居者への報告は職員各自に任せている。現在入居者へのダメージはあまりない。新しい職員が入った時にも入居者は馴染むのが早く親しみをもって交わっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は参加できる人は参加するよう呼びかけている。職員は休みの日や都合に合わせて出席するようにしているが、出席者が決まってしまう状態で多くの職員が参加するには至っていない。出席した時は研修の資料を提出しカンファレンスで報告している。ホーム内での勉強会は今のところ行われていない。		職員は研修に参加し力を入れていかねばと思っているがなかなか実現しない。介護の質を高めるためにもパート職員も加え研修を受講するよう働きかけに取り組まれることが期待される。また、ホーム内でも職員同士で学び合い勉強の機会をつくっていくことに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、その折に同業者との情報交換をしている。グループホーム、特別養護老人ホームなどの施設部会があり、グループホームの部会で情報交換をしたり、勉強しあっている。ホームにおいてもこれらを報告することもある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに安心し納得して入居できるよう家族と一緒に来てもらい、お茶や食事を共にし入居者や職員、ホーム内の様子を見てもらっている。この時職員も歩行状態やその人の様子を見ることができ、今後の参考になっている。時には職員が自宅訪問して話を聞いたり家の状況を見てくることもある。入居するとライフメモに記入し、全職員が介護の参考にしていく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活することにより、不安や喜び楽しみなど入居者の思いを共感し、信頼関係ができていく。仕事に入る時は入居者一人ひとりに挨拶をしており、その時の表情を見て皆の体調を知ることができる。入居者からも和やかな挨拶がかえってくる。履物の脱ぎ方が悪いと揃えてくれることもあり、職員が失敗した時など「失敗は誰でもあるから大丈夫」と慰めてくれたり「あなたがいると安心」と励ましてもらうこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>外出したい希望がある時は散歩に行ったり買い物や図書館へ出かけている。雨の日にコインランドリーに洗濯物を乾かしに行ったり、畑へ野菜を採りに行くなど一緒に手伝ってもらっている。依頼すると応じてくれる入居者には職員の手助けをしてもらっている。思いの把握が困難な人は外出など分かることから取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は入居者のアセスメントを含め、生活状況や問題点を担当職員が記録している。他の職員も介護記録に問題点を記入している。家族の要望、入居者の意見を聴いて、月1回のカンファレンスで話し合いケアマネジャーが作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は長期目標を6カ月、短期目標を3カ月としている。職員が記録する入居者の状態の変化、状況、本人や家族の要望に応じた見直しをし、毎日職員が目を通す介護記録に最新の介護計画をつけている。家族にも報告し確認されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力医による内科受診、健康診断、インフルエンザ予防接種を支援している。また、歯科医への受診は職員が通院を支援している。必要に応じて歯科医の往診も受けており、入居者の口腔ケアに努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。入居者の通院は家族にお願いしており、受診後の医師との情報交換については担当職員が連絡ノートに記録して、必ず全職員が確認している。家族が行けない場合は職員が受診に同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については契約時に説明し家族に了解を得ている。一人ひとりの日常の状態などレベル低下がみえた時は早期に医師、家族、管理者、担当職員で話し合い、医療機関との連携を図り対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護のため、写真の掲示や居室の名札は掲げられていない。個人情報の記録は事務所で保管しており、記入する時も事務所内など入居者の見えない場所で行なっている。訪問時に、食事介助やトイレ誘導などもさりげなく行われていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが自分のペースで本を読んだり、折り紙を折ったり洗濯物干し、たたみ、掃除などを行っている。職員は入居者のその時の気持ちを尊重し支援している。透析等病院に出かける人は食事時間を早めにしたたり、夜間眠れなかった人は起床、朝食をずらすなどその人に合った生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みのメニューを毎月聞いて職員が取り入れながら献立を立てている。誕生日祝いに赤飯にしたり、休日のおやつは手作りにするなど工夫している。朝食の卵焼き、味噌汁を作ったり、食器の後片付けも職員と一緒にして一連の作業を通して入居者の力も発揮されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、午後1時～4時としているが、毎日の入浴を希望する入居者には対応している。夏期は毎日の入浴を基本とし、そのほかに足浴を行なっている。季節の柚子湯、菖蒲湯も楽しんでいる。冬期には老人性乾燥肌でカユミ等を訴える方が多く、医師から処方された塗布剤を使用しており、脱衣所内のケースに保管されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできること、好きなことを支援している。日常の食事作りや食器拭き、畑の手入れ、掃除、洗濯物干し、たたみなどを自主的にできる入居者が他の入居者を誘って行なっている。休日のおやつ作りに力を発揮する入居者も楽しみながら行なっている。年賀状や暑中見舞の作成支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日出かけている。食材の買い物、図書館、町内行事の敬老会、小学校の運動会にも行っている。時には喫茶店にも寄っている。行事として花見、紅葉見物に弁当持参や外食などは入居者の楽しみになっている。入居者の担当職員と買い物に行くことも行なわれ、好みの衣類を選んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていないが、入居者が不穏で外に一人で出る状態がたびたび見られる場合は、職員が話しかけ一緒に散歩に出かけている。入居者の状況に応じて、安全のため施錠する場合もある。居間、台所の出入り口はチャイムで対応し、職員が見守りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練を行ない反省会もして、次回に活かされている。訓練のチラシを近隣に配って協力をよびかけている。消防署へ年間計画を提出しており、AEDの講習を受講した。防災時の備えは飲料水、介護用品は応接室にあり、防災頭巾は居間に備えてある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事作りを通し好みのもの、馴染みのものを美味しく食べることに努め、畑で採れた新鮮でビタミンも考えた献立としている。病気のある入居者は量を調節し、水分補給はおやつの時や常時テーブルに備えてあるが、職員が見守り対応している。毎月体重測定し健康管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い低い窓から前庭の物干し場や畑が見える。浴室やトイレの表示は絵柄になっている。広い居間はクリスマス飾りが入居者手作りの折り紙で飾れている。訪問時には居間で職員と入居者が一緒に体操したり、談話している姿が見られた。畳コーナーでは横になったり、音楽を聞ける工夫がされており、入居者が笑顔で過ごされていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には表札はなく、入居者手作りのリース飾りやぬり絵や折り紙を掛け自分の居室を表現している。馴染みのタンスやベッド、机、椅子、家族の写真、入居者の手作り作品などが飾られ居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。